

徳や風教に關係がないなどと云ふのは實に愚論だ。畫と云ふものは最も人性に密接なる關係を持つてゐるものだ。

近來何々畫集などと銘を打つて不都合極まる繪即ち男女手を携へて歩いてゐる畫や星や莖にあこがれてゐる畫を書いて詩的などとしやれを云ふ奴が居る。之れ等は實に自分から自分の心の下劣にして而もいやしいと云ふことを現はしてゐる馬鹿物だ。そして現代青年の弱點に附込んで盛んに出版する。之れを稱して非教育的圖畫と云ふ。眞面目に習つて眞面目に畫の妙味を探ると云ふ人の決して手にすべからざる物だ。

況んやこの流儀を眞似て自分は〇〇式である等と得意がつてゐる連中を見ると自分は一種言ふべからざる嫌な心持になる。

問に答ふ

■一 曇れる日の藁屋根及建築物の雨戸及柱などの風雨にさらされて白く見ゆるは如何なる色彩を用ひて可なるや
■二 大下先生個人にて著はされし(水彩畫階梯を除き)書籍ありや
■三 ニュートン製のチューブ入を使用するに拘はらず繪がゴザ／＼になるが熟練の足らぬ爲めにや(○△生)◎
■一 このやうな質問には一番困る、見えた様な色をおつけなさいといふより他に言葉が無い、曇つてゐても暗れてゐても他の物體の反映もあれば反射もある、また酒さされて白くなつたといふても程度がある、木質にもよる、其場で一々説明したらとに角、筆の上では何共しかたがない。此際あまり其色彩に拘泥せず、感じて現はすやう

にしたらよい、其點一部分だけにせず、全體を旨くかいて其心持を出すやうにするのです
■三 繪具の爲めてなく技術の不足である、『アマチュウの繪』といふ講話を見たまへ
■二 なし、そのうち『水彩寫生旅行』といふ書物を出す筈
■四 圖案研究の良書を知りたし(無名)◎
■『一般圖按法』といふもの丸善書店にあり
一通りは分る(定價貳圓)外國の分は同店へ問合はされたし
■一 油繪スケッチ板金縁額の代價及賣店を知りたし
■二 日本水彩畫會若しくは春鳥會に入會すれば油繪の批評も受けることを得べきや(逸名)◎
■一 其様式によつて一様ではないが、安いのは壹圓位ひからある。普通二圓も出せば可なり立派、賣店は京橋竹川町八咫屋、芝新櫻田町磯谷、小石川指ヶ谷町百一山本商店等、照會は山本がよからう
■二 洋畫なら何でも批評をする。

本會同人眞野紀太郎氏のために桂淵畫會を設け申候別頂趣意書の通り氏の製作は極めて眞面目のものゝみ従つて家寶とすべき肖像畫の筆者として最も適當なるべく信じ申候就ては依頼者の一人にても多からんことは吾等發起人の切望して止まざる處何卒此際御知友御勸誘速に御申込相成度願上候

春鳥會 大下 藤次郎

追て讀者諸君の分に限り御申込は本會にても取扱可申候